

【科目名】摂食嚥下障害学実習		【担当教員】藤間紀明、佐藤厚
【授業区分】 専門分野(発声発語・嚥下障害)	【授業コード】 5-30-1185-0-1	(メールアドレス) a.satou@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】3年次 通年	【選択必修】必修	(オフィスアワー)
【単位数】1単位	【コマ数】23コマ	佐藤(月～金、木曜日除く)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 摂食嚥下障害学概論、各論で学ぶ摂食嚥下に関する一通りの知識を有していること。中枢神経系の理解を深めて望むこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 必ず実習着着用にて受講すること。資料を随時配布・使用する。実習を行った内容について、受講者同士で練習するなどの理論・技術の復習、定着化を行うこと。		
【講義概要】 (目的) 摂食・嚥下障害の基礎知識を学び、障害に対する固有の問題に配慮した評価・診断・訓練・指導等が行えるようにする。 (方法) 医療面接が実施でき、簡単な視診・触診等が行える。摂食・嚥下のための姿勢管理や福祉用具の使用法について知る。口腔の診査や口腔ケアの方法を知るとともに、感染予防や小器具の取り扱いに配慮できる。機器を必要としない検査や簡単な機器を用いて行う検査や評価が実施できる。嚥下の基礎訓練を身につける。摂食・嚥下障害者のための調理方法、食事形態の工夫が行える。既製の介護食の利用方法や食事介助の仕方を学ぶ。		
【一般教育目標(GIO)】 摂食・嚥下に関する臨床の場で、チーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。 【行動目標(SBO)】 摂食・嚥下障害に対する固有の問題に配慮しつつ、基本的な評価・診断・訓練・指導等を行うことができる。		
【教科書・リザーブドブック】 聖隷嚥下チーム・「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版、2011年、2,808円		
【参考書】 講義中に適宜指示する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 評価は実技試験と筆記試験にて行う。 実習に取り組む姿勢も評価対象とする。		

平成 26～28 年度入学者用

【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		40				40		20	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識	20				20			40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢					20			20
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営 方法			学修課題(予習・復習)	時 間 (分)			
1	実習についてのオリエンテーション 摂食嚥下障害の仕組み、病態	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
2	感染対策、ベッドサイドでの評価	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
3	神経所見のとり方 1	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
4	神経所見のとり方 2	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
5	嚥下器官の触診 1	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
6	嚥下器官の触診 2	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
7	摂食時の姿勢、ポジショニング 1	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
8	摂食時の姿勢、ポジショニング 2	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
9	嚥下造影の方法と所見の分析 1	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
10	嚥下造影の方法と所見の分析 2	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
11	摂食嚥下障害のスクリーニング	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
12	実技試験	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
13	口腔ケア	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
14	呼吸ケア、呼吸訓練	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
15	体幹・頸部のリラクゼーション	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
16	口腔顔面へのアプローチ	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
17	摂食嚥下器官の筋力増強法	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
18	各種のアイスマッサージ	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
19	バルーン法	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
20	増粘剤の使い方、粘度測定法	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
21	代償的嚥下方法 1	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
22	代償的嚥下方法 2	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			
23	実習のまとめ	講義・実習			予習・復習を必ず行うこと	30 分			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の 3 倍)に含むべき時間を示します。